

# 被告側の反対尋問始る

## 水俣病 裁判 青い目の記者も取材

水俣病裁判の第二十三回口頭弁論は十四日午前十時すぎから熊本地裁民事三部斎藤次郎裁判長係りで開かれた。

この日から、元チツソ監査役西田栄一氏に対する被告側の反対尋問に移り、被告弁護団の和智弁護士が西田氏の略歴を中心に、チツソ水俣工場機構とくに技術部、付属病院の職務内容などについてたどした。



入廷する患者を撮影するBBC放送の取材班

開廷前、地裁前にはイギリスBBC放送の取材班やオランダから公衆開放の宣戦布告にやってきたシュミットさんから外国人の姿が目立った。BBC取材班はミカエル

・ブラックスタット・ディレクタ一ら五人で、世界の東宝映画の事態を紹介する番組を制作するた

め、アメリカ、カナダ、日本を回って取材中だという。九日水俣入りし、患者家庭の実情、リハビリセンターに入院中の患者たちを取材したが、重症患者を目的のあたりにして、『テリブル(恐ろしい)』と題名を述べていた。放映は十一月三十日の予定。

またオランダから熊本を訪れて

いる大学講師アンドレ・シュミットさんとトミー・バンデル・ハムさん(二人は記者席に陣取って熱心に傍聴していた)。

また、現在水俣市で水俣病の実態を追求しているアメリカの世界のカメラマン、ユーシン・スミス氏も姿を見せ、入廷する患者家族たちをさかんに撮影していた。